

<報道発表資料>

令和8年3月2日

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

## 令和8年度 「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開

令和8年度の「二条城障壁画 展示収蔵館」の原画公開は、「シリーズ寛永行幸400年」と題して、今からちょうど400年前に行われた寛永行幸で、能を鑑賞するため使用された二の丸御殿の部屋の障壁画に焦点を当て、ご紹介します。



秋期展示作品：二の丸御殿〈大広間〉二の間《松孔雀図》（部分）

寛永3年(1626)、後水尾天皇は二条城に行幸しました。これが、寛永行幸です。二条城では、その準備のため徳川将軍家が寛永元年から3年(1624～26)にかけて大改修を行いました。この時、二条城二の丸御殿の障壁画は、狩野探幽率いる狩野派の絵師たちによって描かれました。

令和8年度の原画公開では、春期はお付きの者たちが座った〈式台〉の間に描かれた《松図》《花鳥図》を、夏期は大御所秀忠や将軍家光が座した〈大広間〉三の間を飾った《松孔雀図》を、秋期は後水尾天皇の御座が設けられた〈大広間〉一の間・二の間の《松竹錦鶏図》《松孔雀図》を、冬期は朝廷側の人々をもてなした〈黒書院〉のうち、一の間・二の間の《松桜柴垣禽鳥図》《桜花雉子図》《楼閣山水図》を公開します。

【事業概要】

- 公開内容及び期間（詳細は別紙のとおり）

シリーズ寛永行幸 400 年

春期「背景の巨松 ～〈式台〉式台の間～」

〈式台〉式台の間障壁画《松図》《花鳥図》

令和 8 年 4 月 2 0 日（月）～5 月 3 1 日（日） [4 2 日間]

夏期「将軍、着座す ～〈大広間〉三の間～」

〈大広間〉三の間障壁画《松孔雀図》

令和 8 年 6 月 1 3 日（土）～8 月 1 1 日（火・祝） [6 0 日間]

秋期「玉座を飾った障壁画 ～〈大広間〉一の間・二の間～」

〈大広間〉一の間障壁画《松竹錦鶏図》《花卉図》

〈大広間〉二の間障壁画《松孔雀図》

令和 8 年 9 月 1 0 日（木）～1 1 月 8 日（日） [6 0 日間]

冬期「華麗なる宴の場 ～〈黒書院〉一の間・二の間～」

〈黒書院〉一の間障壁画《松桜柴垣禽鳥図》《楼閣山水図》

〈黒書院〉二の間障壁画《桜花雉子図》《楼閣山水図》

令和 8 年 1 1 月 1 9 日（木）～令和 9 年 1 月 1 7 日（日） [5 7 日間]

12 月 29 日～31 日は休館

- 入館時間 午前 9 時～午後 4 時 3 0 分（閉館は午後 4 時 4 5 分）

※二条城の入城受付は、午後 4 時まで

- 場所 元離宮二条城内 二条城障壁画 展示収蔵館

（〒604-8301 京都市中京区二条城町 541 番地）

- アクセス 地下鉄東西線「二条城前駅」又は JR 京都駅から市バス 9、50 号系統「二条城前」下車すぐ

- 入館料 1 0 0 円（未就学児無料）

※別途入城料が必要。

※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の 70 歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方、二条城の入城料と二の丸御殿観覧料及び本丸御殿観覧料がいずれも免除される方の入館料は、不要です。

- 主催 京都市文化市民局元離宮二条城事務所

【参考】二の丸御殿障壁画について

元離宮二条城では、二の丸御殿に残る約 3600 面の障壁画を恒久的に保存するため、昭和 47 年（1972）から二の丸御殿障壁画の模写を行っており、現在、式台、大広間、黒書院及び白書院の障壁画のほぼ全てを模写障壁画にはめ替え、原画（オリジナル）を順次「二条城障壁画 展示収蔵館」に収蔵し、展示公開しています。昭和 57 年（1982）には、1016 面が美術工芸品（絵画）として重要文化財に指定されました。

【参考】 「二条城障壁画 展示収蔵館」の概要

「二条城障壁画 展示収蔵館」は、重要文化財指定を受けた二の丸御殿障壁画を恒久的に保存するため、二条城築城 400 年を記念して、平成 16 年 3 月に竣工し、平成 17 年 10 月 10 日に開館しました。

当施設は、障壁画が御殿と同じ配置で収納されている収蔵庫の一部を、ガラス越しに鑑賞できる画期的な設計となっています。また、展示室では、二の丸御殿障壁画に関する資料や飾金具（かざりかなぐ）、城内から発掘された埋蔵文化財も展示しています。



「二条城障壁画 展示収蔵館」外観



「二条城障壁画 展示収蔵館」内観

館内では、迫力ある障壁画の原画をご覧いただけるとともに、写真を撮影することができます。ただし、フラッシュや三脚の使用、長時間にわたる撮影はお断りしています。

〈お問合せ先〉

京都市文化市民局元離宮二条城事務所  
電話 075-841-0096